普及活動現地情報

「農業現場では、今」

【日高振興局】重点プロジェクト【クビアカツヤカミキリ対策の強化とうめの安定生産による産地強化】～クビアカツヤカミキリ防除対策研修会を開催～

令和８年２月号

和歌山県農林水産部経営支援課

（農業革新支援センター）

は　じ　め　に

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

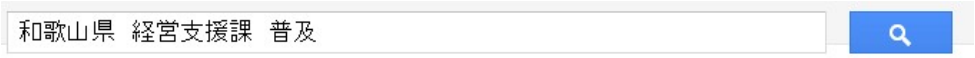
それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ　普及現地情報アドレス

http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。



＜ 目 次 ＞

頁数

Ⅰ　海草振興局　1－2

１．重点プロジェクト【若手生産者を中心としたいちご産地の再興】
～天敵導入現地検討会を開催～
２．「食の交流会」を開催（共催：和海地方生活研究グループ連絡協議会）
３．うまいみかんの連年豊産を目指せ！「匠の技 伝道師」みかん剪定研修会
４．カメムシの越冬量調査

Ⅱ　那賀振興局　3－4

１．岩出市農業士会が先進地研修会を開催
２．紀の川市４Ｈクラブが県外研修会を開催
３．クビアカツヤカミキリ産卵阻止ネット設置研修会を開催
４．紀の川市環境保全型農業グループが研修会を開催

Ⅲ　伊都振興局　5

１．クビアカツヤカミキリ被害樹の代替品目検討
２．橋本市生活研究グループ連絡協議会視察観察研修

Ⅳ　有田振興局　6－7

１．有田市糸我地区「第３４回いも茶がゆと餅つきの集い」開催支援
２．令和７年度第３回アグリビギナー・有田農業女子プロジェクト合同研修会を開催
３．令和７年度有田地方農業士協議会・有田農業女子プロジェクト・新規就農者合同研修会を開催

Ⅴ　日高振興局　8

１．重点プロジェクト【クビアカツヤカミキリ対策の強化とうめの安定生産による産地強化】～クビアカツヤカミキリ防除対策研修会を開催～
２．日高地方花き連合会が高校卒業生に花束を贈呈

Ⅵ　西牟婁振興局　9－10

１．西牟婁地方農業士会連絡協議会が経営研修会を開催
２．環境測定データ活用勉強会を開催
３．西牟婁地方４Ｈクラブ連絡協議会が出前授業及び県外研修を実施

Ⅶ　東牟婁振興局 11
1.重点プロジェクト【いちご産地の維持活性化やる気のある産地づくり】
～みくまの産地協議会がＡＧＲＩわかやま就農相談フェアに出展～

Ⅷ　農林大学校 12
１．卒業論文発表会を開催
２．令和７年度卒業式

Ⅸ　農林大学校就農支援センター 13-14
１．令和７年度社会人課程（離転職者等職業訓練「農業科」）修了式
２．第３回ＡＧＲＩわかやま就農相談フェアを開催
３．令和７年度技術修得研修（第２班）の営農計画発表会／閉講式

Ⅹ　経営支援課 15
１．令和７年度和歌山県青年農業者会議が開催される
２．県農業士会連絡協議会青年部が研修会を開催

Ⅰ　海草振興局

１．重点プロジェクト【若手生産者を中心としたいちご産地の再興】～天敵導入現地検討会を開催～

農業水産振興課では、新規参入したいちご農家の安定生産を実現し、産地化につなげるべく普及活動を行っている。そのテーマの一つである持続的な農業の推進のために、アザミウマ類の天敵導入実証ほを設置し、調査及びデータ収集を行っている。その結果をもとに 2 月 24 日、導入ほ場にて「天敵導入現地検討会」を開催し、7 名の農家が出席した。

検討会では、当課担当から天敵の効果的な導入方法や、併用すると良いとされる耕種的防除法を説明し、導入農家からは取り組んだ感想などを話してもらった。その後、天敵放飼ハウス内で農家同士による活発な意見交換が行われた。

今後も勉強会を開催するなどしていちご農家同士が情報共有し、管内いちご農家全体の栽培スキルを向上できるように支援していきたい。

天敵導入についての説明

２．「食の交流会」を開催（共催：和海地方生活研究グループ連絡協議会）

2 月 26 日、海南 nobinos において、和海地方生活研究グループ連絡協議会（会長：奥 博子氏）が地産地消の推進を図り、食に関する幅広い知識習得や情報交換を行うことで農村女性活動の活性化を図るため、「食の交流会」を開催し、会員、一般参加者、農業士及び関係者 56 名が参加した。

発酵未来塾代表 津村 千賀氏から「和歌山の子や孫に伝えたい食がある～発酵と食育でつなぐ世代のバトン」と題しての講演と、各市町の生研グループから、白菜を使った料理レシピ（計 10 品）の紹介を行った。

参加者からは「発酵食について良くわかった」、「発酵食を次の世代に繋いでいきたい」、「白菜の色々なレシピを聞けて良かった」などの意見があった。

参加者はこの会を通じて知識を深め、改めて地産地消や食育の大切さを再認識することができた。講演等で得た知識を今後の会活動に活かしていけるよう、支援していきたい。

津村 千賀氏の講演

３．うまいみかんの連年豊産を目指せ！　「匠の技 伝道師」みかん剪定研修会

2 月 27 日、海南市下津町内の温州みかん園地において「匠の技 伝道師」橋詰 孝氏による研修会を開催し、生産者 19 名の参加があった。

本研修会は主要な作業時期別に年 3 回開催しており、今回はせん定や施肥について行った。研修会では農業水産振興課の岩橋普及指導員から本年の気象条件とみかんの生育状況を解説し、着花や肥料等に関する情報提供を行った。提供情報をまじえ、橋詰氏の実演とせん定技術の説明が行われた。

橋詰氏からは、「春に芽を多く出させることが大切で、施肥が重要である。確実に芽が出ればせん除する箇所がわかり隔年結果はしない」との説明があり、参加者からも「どんな枝に芽が出やすいのか？」など熱心に質問が出された。

「匠の技 伝道師」の研修会は本年で 5 年が経過し、参加者からの開催要望もあり、次年度も開催を行うこととした。

せん定の実演と説明

４．カメムシの越冬量調査

農業水産振興課では今後の果樹カメムシ類の発生を予測するため、かき・もも研究所協力のもと、果樹カメムシ類の越冬量調査を行っている。今年も 2 月 18 日に管内 9 地点で落ち葉の採取を行い、27 日には採取した落ち葉から越冬中の果樹カメムシ類の種類と数を調査した。

調査の結果、9 地点での平均は 0.2 頭であり、平年値 1.1 頭（過去 10 年の平均値）より少なかった。過去の調査によると、越冬量が少なかった年は春先のカメムシの発生量が少ない傾向にあるが、近年の温暖化により発生時期が前倒しになったり、増殖速度が早くなることもあるため依然として注意が必要である。

落ち葉の採取

Ⅱ　那賀振興局

１．岩出市農業士会が先進地研修会を開催

岩出市農業士会(会長:勢田幸治氏)は、２月３日に先進地研修会を開催し、会員８名が参加した。

まず、湯浅町にある近畿大学附属農場を訪問し、かんきつやマンゴーの圃場やＡＩ選果機が整備された選果場を見学した。その後、日高町の圃場整備事業と若手農業者の取組について、日高町農地利用最適化推進委員の山本喜代一氏と、一般社団法人アッセンブル日高代表で地域農業士の白井雄太氏から話を伺い、圃場を見学した。平成25年度の意向調査から始まり事業開始から現在に至るまで、地域住民との合意形成に向け尽力されてきた山本氏と、その土地を活用する若手農業者の活動に会員も感銘を受け、活発な意見交換を行った。

近畿大学附属湯浅農場圃場にて

日高町での研修

２．紀の川市４Ｈクラブが県外研修会を開催

紀の川市４Ｈクラブ（会長：木村竜二氏）は、2月9日～10日に静岡県浜松市、愛知県豊橋市で県外研修会を開催し、クラブ員5名が参加した。

1日目は、静岡県浜松市で三ヶ日みかんを中心に法人経営を行っている「株式会社陽だまりファーム」において、法人経営、販路展開、消費者交流等について研修した。続いて、愛知県豊橋市にある「トヨタネ研究農場」において、施設野菜の品種比較、生物農薬、環境制御技術について圃場見学を行った。2日目は、静岡県浜松市でねぎ、ちんげんさい、みつばの水耕栽培を行っている「京丸園株式会社」において、ユニバーサル農業（障害者雇用）について研修した。その後、愛知県豊橋市にある「イノチオファーム豊橋」において、環境制御でミニトマト栽培を行っている大型ハウスを視察した。陽だまりファームや京丸園では、法人の代表から話を伺い、各々の経営、意識改革につながった。

陽だまりファームの選果場での研修

京丸園の施設での研修

３．クビアカツヤカミキリ産卵阻止ネット設置研修会を開催

近年、クビアカツヤカミキリの被害樹は増加傾向にあるため、今年度から、農業水産振興課は、果樹試験場かき・もも研究所が開発した、0.3mm 目の防虫ネットを樹に巻き付けて産卵を物理的に防ぐ「産卵阻止ネット」を研修会やモデル園の設置により普及を図っている。

2 月 19 日、ＪＡわかやま紀の里地域本部と連携し、産卵阻止ネット設置研修会を紀の川市粉河で開催し、生産者 10 名が参加した。管内の被害状況の報告や現場での具体的な対策方法を説明し、ネットの取り付け実演を行った。参加者からはネットの耐用年数や普及状況に関する質問が寄せられ、様々な意見交換が行われた。

ネット被覆中の様子

ネットを被覆したももの樹

４．紀の川市環境保全型農業グループが研修会を開催

2月26日、紀の川市環境保全型農業グループ（会長：小林 元氏）は、一般社団法人食と農の健康研究所 所長渡辺和彦氏を講師に迎え、「『本当は教えたくない篤農家の実践テクニック』をわかりやすく解説」と題した研修会を開催し、25名が参加した。

講師からは異常気象の原因、ケイ酸が高温対策に有用であること、肥料成分とヒトの健康への作用、バイオスティミュラントの使用など多岐にわたって解説があった。

参加者はエタノールやフルボ酸の使用について質問し、その解説に熱心に聞き入っていた。

講演

Ⅲ　伊都振興局

1．クビアカツヤカミキリ加害品目に替わる樹種の検討

伊都地域は県内で最初にクビアカツヤカミキリの被害が確認された地域であり、現在では地域全体で発生が蔓延し、改植を迫られている生産者が増加している。そこで、2 月 12 日伊都地方農業振興協議会では、クビアカツヤカミキリが寄生しない作目への改植を検討される方のため、伊都地域と気候が似ている有田川町清水地区で栽培が盛んな山椒を代替作目の有力候補とし、ＪＡわかやま有田地域本部を視察した。

現在、ＪＡわかやま紀北地域本部では『実山椒（収穫期 5～6 月）』のみ取り扱っているが、『干山椒（収穫期 7～8 月）』の方が高単価で取引先とも交渉しやすく、収穫期間が長いということであった。しかし、乾燥・脱種などを行う専用施設の導入が必要であるという懸念点も見えた。栽培に関しては、他の作目にとっては不適となる日当たりが良くない場所を好むということであった。

山椒のメリット、デメリットが明らかになったので、今後、関係機関と共に代替品目として是非を検討する。

山椒栽培園の視察

脱種施設の見学

2．橋本市生活研究グループ連絡協議会視察観察研修

2 月 20 日、橋本市生活研究グループ連絡協議会では、秋津野ガルテンおよび道の駅みなべうめ振興館への視察研修を開催し、19 名の会員が参加した。

秋津野ガルテンでは、木村代表から田辺市上秋津地区で行われてきたこれまでの地域づくりの取組について講演いただいた。新たな取組として良い条件の廃園を再生し、うめの定植等を行っているとの紹介があった。その後、秋津野直売所きてらにて、地元農産物および加工食品の見学を行った。

また、みなべうめ振興館では、和田館長からうめの品種や食品としての効能、栽培の歴史などについて、展示物をもとに紹介いただいた。

今回の研修を通じて、会員同士の交流、また紀南地域の地域づくりの取組および特産のうめについて学ぶことができた。

木村氏による講演

Ⅳ　有田振興局

1. 有田市糸我地区「第３４回いも茶がゆと餅つきの集い」開催支援

２月 11 日、糸我地区青少年育成会（会長：山﨑光二氏）主催による「いも茶がゆと餅つきの集い」が開催された。当会では、毎年、地元の糸我小学校でアイガモ農法による米作りに取り組んでおり、当課は年間を通じて指導を行ってきた。

当日は糸我小学校の児童約 50 名が参加し、地区の中・高校生、老人クラブなど地元の幅広い世代が集まり、子供たちのいも茶がゆ焚きや餅つきを大勢の大人でサポートした。子供たちはマッチの使い方から始まり、火起こし、かまど焚き、杵と臼を使った餅つきなど、慣れない作業に悪戦苦闘していた。「杵と臼を使ったお餅つきは重くて本当に大変だったが、アイガモ農法で育てたもち米をやっとみんなで美味しく食べることができ、うれしかった」等の感想を述べていた。

かまど焚きに挑戦する児童ら

餅つきに挑戦する児童

2．令和７年度第３回アグリビギナー・有田農業女子プロジェクト合同研修会を開催

２月 26 日、有田管内で女性農業者と５年以内に就農した農業者を対象とした合同研修会を有田中央高校ほ場において開催した。20 名の参加があり、「匠の技 伝道師」である佐原洋一氏を講師に招き、今春の着花予測や今後の樹形を見据えた温州みかんの剪定について実演も交えながら研修を行った。

参加者からは「講師がこの枝を切る理由を一つ一つ説明しながら切ってくださったので、とても分かりやすかった。自園地でのせん定は、迷いながらになるので時間がかかってしまう。講師のせん定を参考にしながら自園地でのせん定も時間をかけず効率の良い作業を心掛けたい」などの声が上がった。参加者から活発な質問が途切れることなく続き、講師が丁寧に回答していた。

佐原氏による剪定の実演（中央：佐原氏）

３．令和７年度有田地方農業士協議会・有田農業女子プロジェクト・新規就農者合同研修会を開催

2 月 27 日、農業水産振興課は、有田振興局において標記研修会を開催し、女性農業士、有田農業女子プロジェクト会員、新規就農者 14 名が参加した。第 1 部は管内の先進農家に学ぶ座学での研修会として、株式会社善兵衛 代表取締役 井上信太郎氏並びにみかんのみっちゃん農園株式会社 代表取締役 小澤光範氏を講師に招き、会社の取り組みについて、それぞれ講演していただいた。

第２部では、講師の井上氏、小澤氏をアドバイザーとして、意見交換を実施した。 参加者は講師へＳＮＳ発信やＥＣサイトでの販路拡大での注意点や工夫点、園地や作業の効率化や海外展開への見解など多岐にわたって質問し、講師が丁寧にアドバイスした。参加者からは「今後自身が営農していく中で、ＥＣサイトでの販路拡大やＳＮＳ発信を行っていきたいが、どう展開していくか悩んでいたので、これからの営農に大変参考になった」等の声が上がり、非常に好評であった。

研修会の様子

講師を交えての意見交換会

Ⅴ　日高振興局

１．重点プロジェクト【クビアカツヤカミキリ対策の強化とうめの安定生産による産地強化】
～クビアカツヤカミキリ防除対策研修会を開催～

２月 18 日、日高振興局農業水産振興課は、クビアカツヤカミキリ幼虫の掘り取り技術等の習得を目的にクビアカツヤカミキリ防除対策研修会を御坊市のうめ園地で開催し、管内生産者や関係者など 40 名が参加した。

はじめに幼虫の掘り取り方法等の概要について説明したあと、3 班に分かれて掘り取りの実演を行った。その後、産卵阻止ネットの被覆を実演後、適宜質問に答えた。受講者の中から、産卵抑止ネットの価格や設置時間、耐久性等について質問があった。

クビアカツヤカミキリの被害拡大を防ぐためには、幼虫の掘り取りやネット被覆、伐採・伐根に加え、夏期の薬剤散布などの対策を組み合わせて早期から取り組んでいく必要がある。

当課では、引き続き、関係機関と協力しながら防除対策指導を強化していく。

掘り取り方法の説明を聞く生産者

２．日高地方花き連合会が高校卒業生に花束を贈呈

２月 27 日、日高地方花き連合会（会長：中尾貴宏氏）は、花育活動の一環として、卒業を迎える日高地方の高校 3 年生に花束を贈呈した。この活動は、卒業生にエールを送るとともに、全国有数の花き産地である日高地方の花への関心を高める機会とするため毎年実施している。今回、贈呈用の花束は、御坊市や印南町の花き生産者から提供された約 1400 本の切花で 23 束作製した。

紀央館高校では卒業式のリハーサルの場で贈呈式をおこない、中尾会長のメッセージと共に各クラスの代表に花束が贈呈された。南部高校では、花束の贈呈のほかコサージュ用の花材も提供し、在校生や教諭が作製したコサージュが卒業生の胸元を飾った。この他、日高高校、同校中津分校、和歌山南陵高校においてもメッセージとともに生徒代表に花束を贈呈した。高校を訪問した役員らは、会長からの応援メッセージを伝え、花の説明や生徒らと歓談し、生徒からは、「うれしいです。私たちもこの花束のようにすてきな花を咲かせたいです。」など喜びと感謝の声が聞かれた。

花束贈呈後に記念撮影（紀央館高校）

Ⅵ　西牟婁振興局

１．西牟婁地方農業士会連絡協議会が経営研修会を開催

２月３日、西牟婁地方農業士会連絡協議会（会長：泉 孝志氏）は、県情報交流センタービッグ・ユーにおいて、経営研修会を開催し、会員及び関係機関等 42 名が出席した。

果樹試験場の中谷栽培部長から「ウンシュウミカンにおける温暖化に対応した栽培管理」と題して、適正な水管理方法や浮皮・日焼け果の対策技術についての講演とうめ研究所の道上研究員から「ウメにおける温暖化の影響と開花予想プログラムの開発」と題して、令和６年度作の不作の原因及び開花予想プログラムの概要について講演があった。

参加者からは、「みかんの植物成長調整剤を用いた浮皮対策や炭酸カルシウム資材散布による日焼け果対策について詳しく聞くことができた。来年から取り入れたい」「ウメの暖冬と不完全花の関係がわかった。一昨年、昨年と不作続きなので、花芽をできるだけ増やす管理をしなくてはいけない」との感想があった。

講演の様子

２．環境測定データ活用勉強会を開催

西牟婁地域のいちご栽培において炭酸ガス施用機等環境制御装置を導入している農業者が増えているが、環境モニタリングを行っている農業者は少ない状況にある。農業水産振興課では、令和６年度より管内のいちご栽培施設にデータロガーを設置し、収量、品質（糖度）調査および施設内環境（温湿度、炭酸ガス濃度）を測定している。

２月 24 日、環境制御装置の導入や活用を検討しているいちご生産者を対象に、環境測定データ活用勉強会を開催し、生産者６名が出席した。

当課の伊藤副主査から、実際の測定データを用いて、主に炭酸ガスの濃度変化や効果的な施用方法について説明をした。また、演習問題を使用して、環境測定データ活用方法についてさらに理解を深めた。その後、現在普及指導計画で取り組んでいる炭酸ガス高濃度施用技術の経過報告と燃料費を削減する効率的な炭酸ガス施用方法についても情報提供を行った。参加者から「環境制御するだけではダメだと分かり、モニタリングを始めたい」と意見があった。

環境測定データ活用方法の説明

３．西牟婁地方４Ｈクラブ連絡協議会が出前授業及び県外研修を実施

西牟婁地方４Ｈクラブ連絡協議会（会長：山﨑昴幸氏）は２月 9、10 日に大阪府で出前授業及び県外研修を実施し、クラブ員６名と振興局職員１名が参加した。

２月９日、堺市立八田荘小学校にて出前授業を実施した。5 年生 3 クラス 83 名を対象に、1 クラスごとに梅に関する授業と、冷凍梅と氷砂糖を使った梅シロップ作り体験を行った。講義で使用するスライドは山﨑昴幸氏が作成し、内容は、梅農家の１年、みなべ・田辺の梅システム（世界農業遺産）、小学生でもできる梅産地の守り方などについて授業を行った。また、授業実施日が梅の開花期であったため、満開の花がついた切り枝を持参したところ、生徒達は普段目にすることのない梅の花を見て興味津々な様子であった。

いずれの授業でも生徒達はクラブ員の話を熱心に聞き、「梅で紙に色を付けることはできますか？」や「一番高い梅干しは何円ですか？」など様々な質問があった。

クラブ員からは、「子供達の質問がユニークで答えられるかヒヤヒヤしたがおもしろかった」、「自分達の話を一生懸命に聞いてくれるので、やりがいがあった」等の意見があった。

梅シロップ作りの支援

２月 10 日、大阪公立大学植物工場研究センター（ＰＦＣ）と道の駅愛彩ランドで研修を実施した。

大阪公立大学植物工場研究センターは「ＳＤＧｓの実現に向けて、栽培環境制御型の植物工場を基軸とし、都市型施設園芸の高度化による食料・環境問題の解決に貢献する」という理念のもと、人工光型植物工場を主対象とした最先端研究開発拠点の１つである。クラブ員は、イチゴとニジマスによるアクアポニックス（水産養殖と溶液栽培を統合した食料生産システム）やリーフレタスの大規模生産工場など最先端の研究に関する説明を受け、施設を見学した。

授業中の様子

道の駅愛彩ランドは、地元の農産物が集まる直売所である。クラブ員は、販売されている農産物の和歌山との違いを確認しつつ、地元農産物等の購入などを楽しんだ。

農業水産振興課では、引き続き西牟婁地方４Ｈクラブ連絡協議会の出前授業や県外研修などの活動を支援していく。

生徒達からのお礼の挨拶

Ⅶ　東牟婁振興局

1.重点プロジェクト【いちご産地の維持活性化やる気のある産地づくり】
～みくまの産地協議会がＡＧＲＩわかやま就農相談フェアに出展～

２月８日、ＡＧＲＩわかやま就農相談フェアが和歌山県ＪＡビルで開催された。出展したみくまの産地協議会（構成員：ＪＡわかやまみくまの地域本部、くろしお苺生産販売組合、那智勝浦町、新宮市）のブースに１組１名の相談者が訪れた。

この相談者に対し、橘普及指導員が当地域の特徴、県や町による補助事業について説明をした。さらに、ＪＡわかやまみくまの地域本部の政所副部長、笹平営農指導員は当地域で営農する際のメリット、デメリットを説明した。

今後も当課は、みくまの産地協議会のオブザーバーとして、ＪＡトレーニングファームを拠点とした新規就農希望者の受け入れ等を支援していく。

相談の様子

Ⅷ　農林大学校

１．卒業論文発表会を開催

２月 17 日に卒論発表会を開催し、２年生 12 人が調査研究の成果を発表した。

学生らが発表した内容は、収穫から脱渋処理までの時間の長さと軟化発生との関係やイチゴの品種特性調査及び新品種の育成、援農による労働者確保の取り組みが地域へもたらす効果など多岐に渡った。当日は緊張からか表情が硬い学生もいたが、全員が自らの取り組みを堂々と発表し、発表後は審査員からの質問に時折詰まりながら適切に回答していた。

研究テーマの中には複数年にわたって継続するものもあり、今後は現在の１年生が来年の発表に向けて調査や研究を進めていく。

発表の様子

２．令和７年度卒業式

２月 27 日、卒業式を挙行し、山本校長から２年生 12 人に卒業証書を授与するとともに、成績優秀者に対する表彰では、最優秀者に県知事賞が授与された。

山本校長は式辞で、学生の２年間の成長を称えるとともに、「新たな世界でスタートを切るわけですが、何事にも挑戦する気持ちを燃やしてください」と激励した。

答辞では、松本昇士さんが「農林大学校で培った知識や技術、経験を糧に、それぞれの道で新たな挑戦をしていきます」と、卒業生を代表して新たな門出にあたっての決意を述べた。

卒業生の進路は、就農が２名（うち雇用就農２名）、和歌山県庁、ＪＡわかやまやホームセンターなどに就職 10 名となっている。

卒業証書授与

卒業生答辞

Ⅸ　農林大学校就農支援センター

１．令和７年度社会人課程（離転職者等職業訓練「農業科」）修了式

２月６日、就農支援センターにおいて、社会人課程（離転職者等職業訓練「農業科」）の修了式と営農計画発表会を行った。まず、修了式では田辺産業技術専門学院の大平学院長より、昨年５月から９か月間の研修を修了した９名に修了証書が授与され、お祝いの言葉が贈られた。

また、就農支援センター黒沼所長からは、「本研修で培った仲間とのネットワークを大切にし、農業の夢の実現を目指し、計画的に取り組み、身体を大切にし、自信をもって農業に携わってほしいと思います」と激励の言葉を贈った。

営農計画発表会では、修了生それぞれが将来の目標とそれを実現するための５ヶ年計画の発表や就農に対する抱負を語り、最後に所長をはじめとする職員全員が、送る言葉や励ましの言葉を贈った。

なお、今回の社会人課程修了生９人のうち６人が修了後すぐに就農し、残り３名も将来的には就農する予定である。

修了生への修了証書授与

就農支援センター所長からの祝辞

２．第３回 AGRI わかやま就農相談フェアを開催

２月８日、和歌山県ＪＡビルで第３回ＡＧＲＩわかやま就農相談フェアを開催した。

今回、県相談ブースをはじめＪＡ関係、各市町協議会、わかやま移住定住支援センターなどを含む、16 団体 18 個の相談ブースを設け、県内外から 29 名の相談者が参加した。相談者からは「農業の経験は無いが技術は何処で学べるのか」、「農地はどのように確保するのか」、「どのような補助金があるのか」などの質問が寄せられた。

また、県農林大学校社会人課程を修了し、紀の川市でブルーベリーの観光農園をスタートした方を講師に招き、新規就農セミナーを開催した。参加者からは「これからの就農に向けて良い話が聞けた」などの声が聞かれた。

同フェアは来年度も３回（令和８年７月４日、11 月 29 日、令和９年２月 13 日）ＪＡビルで開催する予定である。

相談ブース

３．令和７年度技術修得研修（第２班）の営農計画発表会／閉講式

２月 20 日、就農支援センター研修館において、技術修得研修（第２班）の営農計画発表会および閉講式を開催した。

技術修得研修(第２班)は、10 月から２月まで５か月間(計 25 日)、果樹・野菜・花きなどの栽培管理、病害虫の防除、農業機械の安全使用などについて、講義や実習を通じて、専門的な知識や技術を身につけた。営農計画発表会では、研修生(９名)がそれぞれの将来目標や抱負を発表し、意見交換を行った。閉講式では、研修日程の 80%以上出席した研修生に対し、所長から修了証書を手渡し、「本研修で修得した基本的な知識や技術を経験として、ここで共に研修を受講した仲間を大切に自身の営農計画の実現に向けて頑張ってください」と激励の言葉を贈った。

研修生による営農計画発表

所長から研修生へ修了証書授与

X　経営支援課

１．令和７年度和歌山県青年農業者会議が開催される

２月５日、和歌山城ホールにおいて令和７年度和歌山県青年農業者会議が開催され、県内の４Ｈクラブ員や農林大学校、農業関係高校生ら 85 名が参加した。

会議では、４Ｈクラブ員及び学生、生徒からプロジェクト発表及び意見発表が行われた。その後、参加者が７グループに分かれ、和歌山県の農業が目指すべき姿について意見交換が行われた。

４Ｈクラブ員の発表については発表内容の審査が行われ、最優秀賞にみなべ梅郷クラブの里村修造氏のプロジェクト発表が選ばれた。

参加者らにとっては、地域や年代の異なる農業関係者との交流の機会となり、今後の営農や進路決定のヒントとなることを期待したい。

里村氏によるプロジェクト発表

グループごとに意見交換でまとめた結果を発表

２．県農業士会連絡協議会青年部が研修会を開催

２月 24 日、印南町防災福祉センターにおいて、「インターネットを活用した販売極意」と題して、県農業士会連絡協議会青年部の研修会が開催され、青年農業士ら 15 名が参加した。

研修会では、食べチョクの運営会社である（株）ビビットガーデンの柳原淳太氏にオンラインにて講演して頂き、ＥＣサイトで売れるためには、「わかりやすさやインパクトが大切」、「写真で農地、食卓のイメージを沸かせることが重要」と話された。

また、（有）観音山フルーツガーデンの児玉典男会長には対面でご講演頂き、参加者との質疑応答形式にて進行し、参加者からの「味には自信があるが、売れない」という悩みに対して、「味で勝負しているならまずは消費者に食べてもらう機会を作ることが大事」などとアドバイスを頂いた。

今後も農業士会活動が意義あるものにするため、会員が要望する研修会を開催していく。

オンラインによる講演

3．むらとくらしを考える会議を開催

2 月 12 日に、和歌山県自治会館において和歌山県生活研究グループ連絡協議会（会長：後藤明子氏）と経営支援課が共催で、地域農山漁村の活性化を目的とした「令和 7 年度むらとくらしを考える会議」を開催し、会員等 94 名が参加した。

今回の開催テーマは「若い力へ伝統をつなぐには」とし、県立南部高等学校谷口和久教諭と食と農園科の学生 4 名が農産加工等の活動内容について発表した。会員と学生とのディスカッションでは、好きな郷土料理の話やイベントへの出品の勧誘などで盛り上がり、若い力との交流を行った。

また、地域の活動事例紹介では、和海地方生活研究グループ連絡協議会の大西順美氏と田端和美氏が、白菜やダイコンのレシピ開発やイタドリジャムなどの「きみのふるさと奨励品」の取組について発表した。県からは、生活衛生課　大久保好規主査から「加工品販売までにかかる手続きとお金の話」について情報提供が行われた。

会場内では、各地方生活研究グループが持ち寄った特色ある手作り加工品、農産物の展示即売が行われ、参加者達は交流を深めた。

当課では、引き続き生活研究グループの活動を支援していく。

学生とのディスカッションの様子

普及活動現地情報　発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4919
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489